

科学者委員会・科学と社会委員会合同広報・科学力増進分科会  
(第23期第4回) 議事要旨

1. 日 時 平成27年7月30日(木) 10:00~12:20
2. 場 所 日本学術会議 6階 6-A 会議室 (1)
3. 出席者 小松 久男委員長、那須 民江副委員長、須藤 靖副委員長、佐藤 岩夫委員  
嶋田 透委員、高橋 桂子委員、萩原 一郎委員、渡辺 美代子委員、柴田 徳  
思委員、笠 潤平委員 (スカイプ出席)  
日本学術会議事務局企画課：吉住課長、坂上、須賀、森  
審議第二担当：盛田参事官、松宮、大西、熊谷  
日本学術協力財団：谷口常務理事、末次

【配布資料】

- 資料1 科学者委員会・科学と社会委員会合同第4回広報・科学力増進分科会出席者一覧
- 資料2 科学者委員会・科学と社会委員会合同第3回広報・科学力増進分科会議事要旨(案)
- 資料3 『学術の動向』平成27年4月号以降の特集等掲載記事一覧
- 資料4 現在寄せられている『学術の動向』特集記事等の企画案等
- 資料5-1 サイエンスカフェ今後の予定
- 資料5-2 サイエンスカフェ開催の流れ
- 資料5-3 サイエンスカフェ講師登録一覧
- 資料5-4 サイエンスカフェについて
- 資料6 提言「今後の高等学校理科教育のあり方」(案)
- 資料7 「サイエンスアゴラ2015」の開催について

【参 考】

- 参考1 科学者委員会・科学と社会委員会合同広報・科学力増進分科会委員会名簿
- 参考2 日本学術会議関連イベント スケジュール (H27.4~)

議 事

議題に入る前に、日本学術協力財団の谷口常務理事が新たに就任したことに伴い、自己紹介及び役員等構成メンバーの紹介、財団が直面する課題等について説明があった。

(1) 前回議事要旨案の確認

特段の修正意見が出なかったため、前回の議事要旨を確定することとした。

(2) 委員の辞任について

業務多忙により委員の継続が困難とのことで、小松委員長に対し申し出のあった清木元治委員の辞任について承認した。

(3) 『学術の動向』の編集・企画について

- ① 特集のテーマ（予定）について審議し、下記のとおり各月号に掲載する特集テーマについて執筆依頼を行うことを決定するとともに、前回の分科会において執筆依頼を行い提出のあった企画案について承認し掲載号を決定した。なお、前回執筆依頼をしていた平成28年1月号の特集1『日本における再生可能エネルギーの利用拡大に向けて』については、外国人講演者が比較的多いことから、事務局より特集の選定について問題提起したところ、英語での掲載についても問題ないということが確認されたため、掲載月を変更した上で執筆依頼を行うこととした。

(平成27年12月号)

- ・特集1：『研究不正と研究健全化』（企画案提出済）
- ・特集2：『グローバル化の中での国際報道と公共放送の役割』（企画案提出済）

(平成28年1月号)

- ・特集1：『アジアのメガシティ東京 その現状と日本の役割』（企画案提出済）
- ・特集2：『震災復興の今を考える：こども・文化・こころをつないで』（小松委員長調整）

(2月号)

- ・特集1：『農学の新展開に向けて－物理学・数学の視点を取り入れた分野横断型農学』（企画案提出済）
- ・特集2：『防災・減災に関する国際研究のための東京会議』（山川委員調整中であるが、調整結果等により4月以降に移行する可能性あり）

(3月号)

- ・特集1：『「安全・安心・リスク」を共通テーマとして【社会の安全目標とリスク・アプローチの役割】【安全工学シンポジウム2015】【原子力総合シンポジウム2015】の各シンポジウムから執筆』（各シンポジウムの中心的役割を果たされた松岡猛先生に依頼）
- ・特集2：『衛生動物が媒介する病気と被害』（嶋田委員調整（※2月号特集2「防災・減災・・・東京会議」の執筆可否により、2月号に繰り上げの可能性あり））

(4月号以降)

4月号以降の特集について、各委員から執筆について調整を行う旨言及があった。

- ・『高レベル放射性廃棄物の処理問題（10月シンポジウム開催予定）』（柴田委員から今田先生に調整依頼）
- ・『歴史教育の明日を探る－「授業・教科書・入試」改革に向けて』（小松委員長調整）
- ・『日本語の歴史的典籍データベースが切り拓く研究の未来』（小松委員長調整）

(4) サイエンスカフェについて

- ・今後の開催予定のうち、広報・科学力増進分科会担当委員が未定であった平成28年9月開催分を嶋田委員が、平成28年11月開催分を高橋委員が担当することとなった。笠委員は、推薦する講師があれば、須藤副委員長と別途相談の上、開催日程等について調整を行うこととした。
- ・サイエンスカフェ講師登録一覧については、定期的に更新することとし、更新作業としては、まず、半期に一度、例えば総会の時期に、現在の会員・連携会員に対し、サイエンスカフェ講師の登録をニュースメール等で呼びかけることとした。また、現在の会員・連携会員以外の既登録者に対しては、年1回、事務局が講師継続の意思を確認することとした。

(5) 高校理科教育検討小委員会提言案について

- ・須藤副委員長から提言案「今後の高等学校理科教育のあり方」の説明が行われ、分科会にて審議の後、更に小委員会で検討することとなった。

(6) 「サイエンスアゴラ 2015」について

- ・小松委員長から、7月の幹事会で日本学術会議によるサイエンスアゴラ 2015 の主催が承認されたこと、開幕セッション(11/13)で大西会長が挨拶されることが報告され、サイエンスアゴラ期間中である11月15日(日)に、日本科学未来館にて広報・科学力増進分科会を開催することが確認された。

(7) その他

(人文・社会科学と大学のゆくえについて)

小松委員長から「公開シンポジウム 人文・社会科学と大学のゆくえ」の紹介が行われるとともに、小森田第一部長から小松委員長あて発出された『『学術の動向』の編集についてのお願い』に基づき、「人文・社会科学と大学のゆくえ」の関連記事を継続的に学術の動向に掲載していくことを了承した。

また、連載記事や特集記事の選定方法など「学術の動向」の誌面の充実策・方向性に関し、より一層議論していきたい旨の意見が出された。

(英語版パンフレットについて)

事務局から英語版の日本学術会議パンフレット作成している旨の説明があり、次のような意見が出された。

- ネイティブチェックを行った方が良い。
- 表紙のイメージに注釈を入れた方が良い。
- 裏表紙の地図に日本語が併記されているが不要。
- 修正案が出来たら、各委員にメール送付して確認を受けること。

(海外広報について)

事務局から「海外広報の開拓について～NARへの対応～」について説明があり、了承した。その際、次のような意見が出された。

- NARにおいて英訳がしてもらえとのことだが、誌面に載せる際に分科会で内容を確認したいので、そのプロセスを入れること。
- 著作権の関係を確認すべき。  
(→著作権は執筆者に帰属しているため、執筆者が了解すれば財団としては問題ないとのこと)
- 「学術の動向」を送付して、英訳記事を作成してもらうのは良いことだと考えるが、速報性に関して十分とは言えない。シンポジウムに来てもらい記事を書いてもらうという方法も考えられるがいかがか。  
(→事務局からシンポジウムの開催予定を教示することは可能な旨言及したところ、あまり特定の社に便宜を図るのは問題があるのではないかとの意見が出されたため、シンポジウムについては、日学HPを紹介する程度に留めることとなった)
- 海外広報の開拓については、海外の方に興味がありそうな案件については、特派員の記者クラブ等に情報提供していくのも有効策の一つである。

(分科会の在り方について)

小松委員長から、分科会発足から1年が経過したのを契機に、分科会の在り方について、意見を伺い次回分科会の際に全体の意見を集約したい旨発言があったところ、次の意見が出された。

- 23期から広報分科会と科学力増進分科会が合併したのは誤り。
- サイエンスカフェのあるべき姿などについて議論を深めたいのに困難な状況である。
- 時間が制約されるため、ルーティーン業務に追われ議論を深める時間が足りない。

(次回開催日について)

次回は、総会時1日目(10/1)の12:00から開催することとなった。

以上